



星美学園
小学校
第524号

主の受難を
想う月

聖書

互いに同じ思いを抱き、同じ愛を持ち、心を合わせ、思いを一つにし、対抗意識を持つたり、見栄張ったりせず、へりくだって、互いに相手を自分よりすぐれたものと思わないさい。

フィリピ二章

“マリアはその良いほうを選んだのです”

図画工作科 三村 和彦

はじめに聖書のみことばに耳を傾けたい

主は答えて言われた。「マルタ、マルタ。あなたは、いろいろなことを心配して、気を使っています。しかし、どうしても必要なことはわずかです。いや、一つだけです。マリアはその良いほうを選んだのです。彼女からそれを取り上げてはいけません。」〔新約聖書 ルカによる福音書10章41〜42節 新改訳聖書〕

イエスさまが旅を続けられ、ある村に入られた。すると、イエスさまが村に入られた事を聞き付けたマルタという女性が喜んで家にお迎えした。この家にはマルタの姉妹で名をマリアという妹がいた。マリアは主イエスの足もとに座り、イエス様が語られる“みことば”に聴き入っていた。

姉のマルタは、世話好きな性格の人であった。マリアは本質を見抜く力に優れた妹と言えるかもしれない。どちらの性格も私たちの社会生活の中では必要なものだが、ある意味でどちらかに偏りすぎては問題が起りうる事も確かであろう。

マルタはイエス様を折角、家にお招きしたのでおもてなしをしようとする支度に忙しく立ち居振舞っていた。イエス様を大切な客人として家にお連れしたマルタ。イエス様に何か良いことをして、仕えようとした姿が読み取れる。

妹のマリアは姉のマルタと共に台所で本来ならば一緒に働くべきだったのかも知れない。マリアの姿を見てみると、イエス様の話を真近で聴くことのできる貴重な機会を逃すまいと主の足もとに座り、みことばに聞き入っていた。姉も妹もそれぞれ善と言う状況で時が過ぎていった。しかしここで一番イライラしたのは姉のマルタであった。彼女は義務や指名に忠実であった。誰も彼女の行動に非難することはできないであろう。しかしマルタはいろいろな事を心配して、気を使っていた。そこに問題があった。聖書の原語では「心配する」気づかう、思煩う」という能動形の動詞である。「気を使う」は、心をかき乱される、という受動形の動詞である。内から外からさまざま

まなざわめきがやってきて、マルタの心をいらだたせた事がわかる。「心配り」と「気を使う」は似ているようで本質的に違うのである。

私たちの生きている社会は、まさにこのような状況下が続いている。疲れは問題を生む。マルタはこのもてなしのために気が落ち着かず、イエス様に妹の態度について訴えているのである。「主よ。妹が私だけにおもてなしをさせているのを、何とも思いにならないのでしょうか。私の手伝いをするように、妹におっしゃってください。」(ルカ10:40)

この後に続く聖書の箇所が冒頭のみことばである。何か良いことをしながらも、私たちは時としてその中で不平不満をつのらせる場合がある。イライラする前に、その原因をちよつと考えてみる。それが本当に、キリストに仕えていることなのか、イエス様が喜ばれる事なのか自問自答してみる。何のためにこれをしているのか、そのやり方で本当に良いのかを考えたい。

イエス様がイライラするマルタに優しくおっしゃったお話しに、私は笑うことができない。

この箇所には不思議にもマリアのことばが一言も出てこない。彼女は霊的なことを黙々と第一に置いたと言える。イエス様のみことばに熱心に聞き入るマリア。マリアはイエス様の忠実な弟子のひとりとなり、やがて彼女の兄弟ラザロのよみがえりの目撃者にもなる。

一日を始める前に今、私は「マルタの状態」なのか考えたい。人はやらなければならぬ事が山ほどある。それが現実である。しかし、忙しくて時間がなく「祈れない?」「聖書を読む時間が無い?」のか。

“神の国と神の義を先ず第一に求める”ことは、イエス様が教えられた基本中の基本である。

聖書から神様の語りかけ、みことばに心を静めて耳を傾ける生活を基本に置きたい。神様の語りかけに応答する祈りも大切なことは言うまでもない。神様との縦の関係がしっかりと来ると、横の人間関係も今よりも少し風通しの良い優しい状況に変化していくのではないだろうか。聖書の出来事から少し考えさせられた。

「チマツチ神父の生涯」

日本の地で聖ドン・ボスコの心を生きた人々



晩年、病床にあつても、絶え間ない祈りで最期まで会員を支え、励ましていたチマツチ神父は、手紙を書いたり、話をしたりするとき、「私がよい死を遂げることができまますよう祈ってください」と頼んでいた。完全な愛のうちに死にたいと望んでいた。

生涯中の彼の働きは、数多くの人々に愛され、心から尊敬され、天皇陛下やイタリア政府にも認められるほどであった。音楽を通しての宣教活動で全国を回り、人目に出ることが多かったと思われるが、内奥においては、謙遜で慈悲に富む生き方をし、誰にも知られることなく生き、そして死ぬことを希望していた。

一九六五年十月六日の早朝、静かにこの世を去った。司祭になって六十年、宣教師として来日して四十年になっていった。サレジオ会員はもちろんのこと、生徒や友人、恩人に、彼は忘れられない素晴らしい模範と、聖なる知恵にあふれた、たくさんの手紙を霊的遺産として残し、これらの手紙は今も、私たちが手に取って触れることができる本となっている。チマツチ神父の葬儀は東京でも、宮崎でも「凱旋式」のようなものであった。この世を去ったチマツチ神父は、いまだに近くに感じるがする。ドン・ボスコが亡くなったときに、「地上において父を失ったが、天においては守護者を得た」と当時の人々が語っていたことと同じことが言える。

三年生カトリック音楽会

心が一つになったカトリック音楽会

三年

私達は『MIDORI』と『Sentite!』を歌いました。『Sentite!』は、私達のドン・ボスコの言葉で、「みんな聞いて！」という意味です。ドン・ボスコは歌うのが大好きです。私たち星美の子も歌うのが大好きです。音楽会の練習をするうちに、歌を通じて友人と協力すること、みんなの心が一つになっていくこと、そして心が一つになった時、とても気持ちよく心がうきうきした感じになることを実感しました。

いよいよ私達の番が来ました。目の前の松井先生をじっと見つめ、会場の一番後ろまで声がとどく様に口を大きく開けておなかのそこから、大きな声で一生懸命歌いました。歌い終わった後は、スーッと力がぬけて、あんなに鳴っていた心ぞうの音もふしぎと消えていきました。そして何よりうれしい気持ちになりました。

待ちに待ったカトリック音楽会

三年

わたしたちが出る午前の部は十時五十分の開演です。合唱する時三つ目だったけど、ぶ台にでる時三つ目の人とはぐれてしまった時はとてもはさしかかったです。

わたしたちは、午前の部の中でさい年少でした。しっばいしたらどうしようかととてもドキドキしました。でもいざぶ台に立つとえがおになることができました。とてもうれしかったです。

わたしたちは『センチテ』と『MIDORI』を歌いました。センチテはテンポがよくとても元気で明るい歌です。MIDORIはおだやかで地球温暖化をふせいでほしいというねがいをこめた歌です。二つの歌のメッセージが伝わるように歌いました。とても楽しかったです。この行事を通して様々なカトリック小学校の歌声をきくことができ、とてもうれしかったです。来年三年生になる子にもがんばってほしいです。

カトリック音楽会

三年

学校出発時、ぼくはとてもワクワクしていました。なぜなら、あんなに大きなぶ台でお客さんに合唱を聞かせることは人生でなかなかないことだしとても楽しかったです。

シビックホールの自分の席で、他の学校の歌や合唱を聞きました。その時、すごいなあ、ぼくたちもがんばらなきゃ、と思いました。

三校目にぶ台にたちました。少し、きんちようしたけど、とてもうまく歌えました。『センチテ』の歌の時にジェスチャーを忘れずに行うことができたので良かったです。

席に戻った時に、なんだかスッキリしました。なぜなら、自分でうまく歌えたなと思えたからです。そして、シビックホールのぶ台にたつことができてうれしかったです。

学校に戻った時、また大きなぶ台で歌を歌える機会があったらいいなと思いました。

3月行事予定

- | | |
|---------------|-------------------|
| 3日(金) | 塾・幼児教室対象説明会 |
| 6日(月) | 給食最終 |
| | ホームステイ学習会 |
| | 6年生卒業遠足 |
| 7日(火) | 大掃除・ホームステイ最終説明会 |
| 8日(水) | 6年生を送る会・卒業練習① |
| 9日(木) | 6年生お別れ試合・卒業練習② |
| 10日(金) | 卒業練成会ミサ・卒業練習③ |
| 13日(月) | 卒業式リハーサル |
| 14日(火) | 卒業式準備 |
| 15日(水) | 第71回卒業式 |
| 16日(木) | 仲良し会 |
| 18日(土) | 平成28年度修了式・父母の会役員会 |
| 20日(月) | 春分の日 |
| 22日(水)～30日(木) | ホームステイ |



6年生を送る会

卒業式に参加しない3年生以下の皆さんは6年生と最後のお別れの時間です。今までの感謝の気持ちを込めて、6年生と一緒に楽しいひとときとなるよう、各学年で催し物を準備しています。

仲良し会

神様からいただいた尊い命と数々の恵み、さらに、お互いの成長を感謝する会です。思いやり、感謝する気持ちを忘れずに、仲良く、楽しい時間を過ごしましょう。各クラスで準備を進めています。

第71回卒業式

125名の6年生が卒業します。式に出席する4・5年生は11時50分に下校となります。3年生以下は家庭学習の日になります。

平成28年度 修了式

現学年を修了する大切な日です。最終下校は12時10分の予定です。

ドン・ボスコミサ

1月31日のドン・ボスコ祝日のミサには、バチカン市国 教皇庁 国務省外務局長のポール・ギャラガー大司教と駐日教皇庁大使のジョセフ・チェノットウ大司教によるミサが行われました。チェノットウ大司教が主司式を行い説教はギャラガー大司教が行われました。ミサの後に児童会から花束の贈呈があり最後に全員一緒に記念撮影が行われ記念に残るミサとなりました。



平成29年度 始業式

4月6日(木)

平成29年度 入学式

4月8日(土) 10時より

